

平成 2 5 年度  
青森市教育委員会事務の管理及び  
執行の状況の点検及び評価報告書  
- 平成 2 4 年度の実績 -

青森市教育委員会

青市教報告第1号

平成25年10月29日

青森市議会議長 丸野達夫 様

青森市教育委員会

平成25年度青森市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び  
評価報告書

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項の規定により、  
平成25年度青森市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報  
告書を次のとおり提出する。

# 目 次 -

1 . 平成 2 4 年度教育委員会の活動状況	
( 1 ) 教育委員	1
( 2 ) 教育委員会会議審議案件	1
( 3 ) 教育委員会会議以外の主な活動状況	7
2 . 教育委員会事務の点検・評価	
( 1 ) 趣旨	9
( 2 ) 点検・評価の対象	9
( 3 ) 学識経験者	10
( 4 ) 点検・評価方法	11
3 . 点検・評価結果	
政策第 1 節 学校教育の充実	12
政策第 2 節 社会教育・生涯学習の推進	19
政策第 3 節 文化・芸術の推進	21
政策第 4 節 スポーツ・レクリエーションの推進	26
4 . 学識経験者の意見 ( 総評 )	33
5 . まとめ	34

## 1. 平成24年度教育委員会の活動状況

### (1) 教育委員

職名	氏名	任期	就任年月日
委員長	柳谷章二	H20. 5. 20 ~ H24. 5. 19	H17. 9. 22
委員長	佐藤秀樹	H24. 5. 20 ~ H28. 5. 19	H24. 5. 20
委員長 職務代行者	鎌田慎也	H21. 5. 20 ~ H25. 5. 19	H17. 4. 1
委員	平出道雄	H23. 5. 20 ~ H27. 5. 19	H19. 5. 20
委員	西村恵美子	H22. 5. 20 ~ H26. 5. 19	H18. 5. 20
委員	石澤千鶴子	H24. 4. 1 ~ H28. 3. 31	H24. 4. 1
教育長	月永良彦	H25. 5. 20 ~ H29. 5. 19	H21. 6. 1

網掛けは、平成24年度途中で者が変更となった教育委員である。

### (2) 教育委員会会議審議案件

会議	議案・報告事項等
平成24年第4回定例会 日時:平成24年4月23日 場所:教育研修センター 4階 第2研修室	<p>【議案】</p> <p>議案第17号 臨時に代理し処理した事項の承認について(森の広場) 議案第18号 臨時に代理し処理した事項の承認について(少年指導)</p> <p>【報告】</p> <p>(1) 暴風に伴う被害報告について (2) 西田沢小学校の耐震診断結果について (3) 青森市民室内プール改修工事の工期について (4) スポーツ推進審議会委員の就任辞退について (5) 体育施設における新エネルギー・省エネルギー設備の導入について (6) 棟方板画館・棟方志功記念館合併記念「棟方志功展」の開催について (7) 小・中学校の校庭除雪について (8) 浪岡庁舎周辺整備事業計画における浪岡中央公民館等の改築について</p>

会 議	議案・報告事項等
<p>平成 24 年第 5 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 5 月 16 日</p> <p>場所:青森市立泉川小学校 1 階 視聴覚室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 19 号 スポーツ基本法の施行に伴う関係規則の整理に関する規則の制定について</p> <p>議案第 20 号 青森市就学指導委員会に関する規則を廃止する規則の制定について</p> <p>議案第 21 号 青森市就学指導委員会条例の制定について</p> <p>議案第 22 号 平成 24 年度一般会計補正予算について</p> <p>議案第 23 号 専決処分について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 青森市立金沢小学校改築事業について</p> <p>( 2 ) 財産の取得について ( 教育用情報処理機器の購入 ( 青森地区 ) )</p> <p>( 3 ) 森林博物館用地の一部譲渡について</p> <p>( 4 ) 「社会教育・生涯学習事業の改善及び再構築に関する提言書」について</p>
<p>平成 24 年第 2 回臨時会</p> <p>日時:平成 24 年 5 月 21 日</p> <p>場所:柳川庁舎 2 階 大会議室</p>	<p>【議事】</p> <p>( 1 ) 委員長の選挙</p> <p>( 2 ) 委員長職務代行者の指定</p>
<p>平成 24 年第 6 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 6 月 26 日</p> <p>場所:柳川庁舎 2 階 大会議室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 24 号 青森市奨学金貸与条例施行規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 25 号 教育長の権限に属する事務の一部を学校長に委任する規程の一部を改正する規程の制定について</p> <p>議案第 26 号 臨時に代理し処理した事項の承認について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 平成 24 年第 2 回市議会定例会の質問概要について</p> <p>( 2 ) 寄附金による学校図書購入について</p> <p>( 3 ) 中央市民センター耐震補強工事中の事故について</p> <p>( 4 ) 学校給食に係る放射線検査機器の設置について</p> <p>( 5 ) キッズコンサートの開催について</p> <p>( 6 ) 青森市少年海外生活体験事業について</p> <p>( 7 ) 青森市中学校生徒海外派遣・受入事業について</p>
<p>平成 24 年第 7 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 7 月 26 日</p> <p>場所:教育研修センター 5 階 大会議室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 27 号 青森市就学指導委員会委員の委嘱及び任命について</p> <p>議案第 28 号 ( 仮称 ) 教育振興基本計画策定方針 ( 案 ) について</p> <p>議案第 29 号 社会教育委員の設置について</p> <p>議案第 30 号 臨時に代理し処理した事項の承認について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 三内中学校における器物損壊等事件について</p> <p>( 2 ) ( 仮称 ) 青森市小牧野遺跡の保護に関する条例の骨子案について</p> <p>( 3 ) 学校給食に係る放射性物質検査の実施について</p> <p>( 4 ) 小・中学校におけるいじめ対策について</p>

会 議	議案・報告事項等
<p>平成 24 年第 8 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 8 月 16 日</p> <p>場所:教育研修センター 4 階 第 2 研修室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 31 号 青森市社会教育委員条例の制定について</p> <p>議案第 32 号 平成 24 年度一般会計補正予算について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 寄附採納について</p> <p>( 2 ) 指定管理者の募集等について</p> <p>( 3 ) 青森市民図書館窓口等業務プロポーザル実施要項の概要について</p> <p>( 4 ) アートで音楽のあるまちづくりの方針(素案)について</p> <p>( 5 ) 財団法人青森市文化スポーツ振興公社の経営状況及び経営改善計画の進捗状況について</p> <p>( 6 ) 平成 24 年度青森市少年海外生活体験事業について</p> <p>( 7 ) 青森市 P T A 連合会ねぶたの「青森ねぶたお祭広場」への参加について</p> <p>( 8 ) ロンドンオリンピックにおける本市関連選手の活躍について</p>
<p>平成 24 年第 9 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 9 月 27 日</p> <p>場所:教育研修センター 5 階 大会議室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 33 号 青森市文化財審議会委員の委嘱について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 )( 仮称 ) 青森市スポーツ推進計画について</p> <p>( 2 ) 青森市民図書館の建造物侵入に係る被害届について</p> <p>( 3 ) 市内小学校における草刈り作業中の事故について</p> <p>( 4 ) 全国学力・学習状況調査について</p> <p>( 5 ) 市内男子中学生が逮捕された事件について</p> <p>( 6 ) 平成 23 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果について</p> <p>( 7 ) 青森市学校図書館読書感想文コンクール「学校賞」について</p>
<p>平成 24 年第 10 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 10 月 26 日</p> <p>場所:教育研修センター 4 階 第 2 研修室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 34 号 青森市社会教育委員会議規則の制定について</p> <p>議案第 35 号 青森市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について</p> <p>議案第 36 号 ( 仮称 ) 青森市スポーツ推進計画の素案について</p> <p>議案第 37 号 青森市指定有形文化財の指定に関する諮問について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 平成 24 年第 3 回市議会定例会の質問概要について</p> <p>( 2 ) 寄附採納について</p> <p>( 3 ) 「( 仮称 ) 青森市小牧野遺跡の保護に関する条例(骨子案)」に係るわたしの意見提案制度の実施結果について</p> <p>( 4 ) 青森市小学校給食センター等整備運営事業の設計概要及びスケジュールについて</p>
<p>平成 24 年第 3 回臨時会</p> <p>日時:平成 24 年 11 月 12 日</p> <p>場所:教育研修センター 4 階 第 2 研修室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 38 号 通学区域再編について</p>

会 議	議案・報告事項等
<p>平成 24 年第 11 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 11 月 19 日</p> <p>場所:柳川庁舎 2 階 大会議室</p>	<p><b>【議案】</b></p> <p>議案第 39 号 青森市社会教育委員の委嘱について</p> <p>議案第 40 号 青森市特別職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について</p> <p>議案第 41 号 青森市立小学校条例の一部を改正する条例の制定について</p> <p>議案第 42 号 青森市小牧野遺跡の保護に関する条例の制定について</p> <p>議案第 43 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市文化会館等の文化施設)</p> <p>議案第 44 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市民体育館等の体育施設)</p> <p>議案第 45 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市東部市民センター)</p> <p>議案第 46 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市大野市民センター)</p> <p>議案第 47 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市横内市民センター)</p> <p>議案第 48 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市戸山市民センター)</p> <p>議案第 49 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市北部地区農村環境改善センター)</p> <p>議案第 50 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市荒川市民センター)</p> <p>議案第 51 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡体育館等)</p> <p>議案第 52 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡中央公民館)</p> <p>議案第 53 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡大杉公民館及び大杉公園)</p> <p>議案第 54 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡北中野公民館)</p> <p>議案第 55 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡女鹿沢公民館)</p> <p>議案第 56 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡野沢公民館)</p> <p>議案第 57 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市浪岡本郷公民館)</p> <p>議案第 58 号 公の施設の指定管理者の指定について(青森市中世の館)</p> <p>議案第 59 号 平成 2 4 年度一般会計補正予算について</p> <p>議案第 60 号 専決処分について</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>( 1 ) 平成 2 4 年度青森市成人式について</p> <p>( 2 ) 青森市民室内プールの再開について</p> <p>( 3 ) 「アートで音楽のあるまちづくりの方針(素案)」に係るわたしの意見提案制度の実施結果について</p> <p>( 4 ) 財団法人青森市文化スポーツ振興公社の損害賠償請求に係る同公社元役職員への求償に関する裁判について</p> <p>( 5 ) 平成 2 4 年度青森県学校給食献立コンクール入賞について</p>
<p>平成 24 年第 12 回定例会</p> <p>日時:平成 24 年 12 月 26 日</p> <p>場所:柳川庁舎 2 階 大会議室</p>	<p><b>【議案】</b></p> <p>議案第 61 号 青森市立小学校及び中学校の就学に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 62 号 アートで音楽のあるまちづくり方針の策定について</p> <p>議案第 63 号 臨時に代理し処理した事項の承認について(学校給食費の支払を求める訴えの提起にかかる専決処分について)</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>( 1 ) 市内中学校教諭による体罰について</p> <p>( 2 ) 学校給食における賞味期限切れ食材の使用について</p> <p>( 3 ) 平成 2 4 年第 4 回市議会定例会の質問概要について</p> <p>( 4 ) 青森市子ども読書活動推進計画第二次計画の進捗状況について</p> <p>( 5 ) 平成 2 5 年度学校教育指導の方針と重点について</p> <p>( 6 ) 荒川中学校における感染性胃腸炎の集団発生について</p>

会 議	議案・報告事項等
<p>平成 25 年第 1 回定例会</p> <p>日時:平成 25 年 1 月 25 日</p> <p>場所:教育研修センター 4 階 第 2 研修室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 1 号 臨時に代理し処理した事項の承認について(平成 2 5 年 1 月 1 日付け人事異動について)</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 筒井中学校における生徒の転落事故について</p> <p>( 2 ) 油川市民センターの指定管理者の募集について</p> <p>( 3 ) 寄附採納について( 図書寄贈 )</p> <p>( 4 ) 平成 2 4 年度青森市成人式について</p> <p>( 5 ) 平成 2 4 年度青森市中学校生徒海外派遣・受入事業の実施状況について</p> <p>( 6 ) 第 2 5 回棟方志功賞版画展の開催について</p> <p>( 7 ) 「矢野きよ実講演会」及び「書きましょ IN 青森」の開催について</p> <p>( 8 ) アートで音楽のあるまちづくり周知イベント「真冬のジュークボックス」の開催について</p> <p>( 9 ) 第 8 回全国高等学校カーリング選手権大会の開催について</p> <p>( 10 ) 平成 2 4 年度学習状況調査について</p> <p>( 11 ) 体罰に関わる調査の実施について</p>
<p>平成 25 年第 2 回定例会</p> <p>日時:平成 25 年 2 月 7 日</p> <p>場所:柳川庁舎 2 階 大会議室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 2 号 住居表示の実施に伴う関係条例の整理に関する条例の制定について</p> <p>議案第 3 号 公の施設の指定管理者の指定について( 青森市油川市民センター )</p> <p>議案第 4 号 平成 2 4 年度一般会計補正予算について</p> <p>議案第 5 号 教育委員会事務局職員の人事異動について(平成 2 5 年 2 月 2 5 日付)</p> <p>議案第 6 号 青森市スポーツ推進計画の策定について</p> <p>【報告】</p> <p>( 1 ) 平成 2 4 年度青森市文化賞・スポーツ賞の表彰について</p> <p>( 2 ) 平成 2 4 年度文部科学大臣優秀教員表彰について</p> <p>( 3 ) 荒川中学校におけるスクールバスの未運行について</p> <p>( 4 ) 財産の取得について( 浪岡地区スクールバスの購入 )</p> <p>( 5 ) ( 財 ) 青森市文化スポーツ振興公社の経営評価結果について</p> <p>( 6 ) 学校給食費の支払督促の結果について</p>
<p>平成 25 年第 1 回臨時会</p> <p>日時:平成 25 年 2 月 22 日</p> <p>場所:柳川庁舎 5 階 教育長室</p>	<p>【議案】</p> <p>議案第 7 号 平成 2 5 年度一般会計当初予算について</p> <p>議案第 8 号 県費負担教職員の任免の内申について</p> <p>議案第 9 号 平成 2 5 年度教育委員会事務局の人事異動について</p>



会 議	議案・報告事項等
<p>平成 25 年第 3 回定例会</p> <p>日時:平成 25 年 3 月 27 日</p> <p>場所:教育研修センター 2 階 第 2 研修室</p>	<p><b>【議案】</b></p> <p>議案第 10 号 臨時に代理し処理した事項の承認について ( 青森市市民センター条例の一部を改正する条例の制定について )</p> <p>議案第 11 号 青森市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 12 号 青森市教育委員会事務局の組織及び運営に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 13 号 青森市立小学校及び中学校の就学に関する規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 14 号 青森市民図書館条例施行規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 15 号 青森市市民センター条例施行規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 16 号 青森市中央市民センター処務規則の一部を改正する規則の制定について</p> <p>議案第 17 号 青森市教育委員会事務の専決等に関する規程の一部を改正する規程の制定について</p> <p>議案第 18 号 青森市指定有形文化財の指定について</p> <p>議案第 19 号 青森市スポーツ推進委員の選任について</p> <p>議案第 20 号 教育長の一般財団法人青森市文化スポーツ振興公社理事の兼職の承認について</p> <p>議案第 21 号 臨時に代理し処理した事項の承認について ( 職員の処分 )</p> <p><b>【報告】</b></p> <p>( 1 ) 平成 2 5 年第 1 回市議会定例会の質問概要等について</p> <p>( 2 ) 寄附採納について</p> <p>( 3 ) 津波想定浸水域内の学校数について</p>

( 3 ) 教育委員会会議以外の主な活動状況

月	活動内容
平成24年4月	10日 青森市立小・中学校校長会 11日 東青管内小・中学校校長会議 " 市町村教育委員会教育長会議 12日 東青管内小・中学校教頭会議 16日 青森県都市教育長協議会 定例会 17日 " 研修視察 19日 青森市立小・中学校臨時校長会 21日 青森ライオンズクラブ 総会 24日 青森市観光レクリエーション振興財団 評議員会 27日 青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会 代表者会議 " 青森県市町村教育委員会連絡協議会 理事会
5月	1日 市民美術展示館(棟方志功展) 視察 8日 青森市公立学校事務研究会 定期総会 10日 青森県初任者研修実施協議会 11日 青森県小学校長会総会 13日 青森市PTA連合会 総会 15日 青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会定期総会 16日 学校訪問(泉川小学校) " 青森県教科用図書選定審議会 22日 青森市子どもを犯罪から守る学校支援協議会 24日 青森地区少年警察ボランティア連絡会 25日 青森県市町村教育委員会連絡協議会 定時総会
6月	5日 青森県教科用図書選定審議会 16日 青森市中学校体育大会 夏季大会 22日 青森市小学校体育デー 開会式 25日 財団法人青森県育英奨学会 理事会
7月	5日 東北連合小学校長会研究協議会青森大会 6日 全国市町村教育委員会連合会 理事会 " 中核市教育長会 11日 東北六県市町村教育委員会連合会 総会 12日 " 研修会 14日 青森県中学校体育大会夏季大会 開会式 22日 青森市内学童水泳競技大会 開会式 24日 青森県教育委員会への要望書提出(県市町村連絡協議会から) 27日 青森県学校教育相談研究会・研究協議会 30日 青森市児童親善野球大会本大会 開会式
8月	2日 臨時青森市立小・中学校校長会議 8日 青森県立高等学校入学者選抜研究協議会
9月	14日 青森市文化スポーツ振興公社 理事会
10月	9日 青森市文化スポーツ振興公社 臨時理事会 10日 青森市小学校連合音楽会 開会式 12日 東北地区青少年補導センター連絡協議会 総会 13日 あおもりソーデーマーチ 出発式 " 子どもの絵画コンクール 表彰式 21日 MOA美術館児童作品展 表彰式 25日 青森市中学校文化連盟 音楽発表 27日 全国歯科保健大会 開会・大会式典 29日 石江分館落成披露祝賀会
11月	2日 学校保健研究大会 6日 青森県私立幼稚園PTA連合会 PTAのつどい 9日 青森市子どもを犯罪から守る学校支援協議会 10日 青森市中学校文化連盟演劇発表会 14日 市町村教育委員会委員長・教育長合同会議 17日 長島小学校120周年記念式典 18日 日本LD学会 公開シンポジウム(青森)開会行事 22日 小柳小学校創立40周年記念式典

月	活動内容	
12月	2日 4日 15日 21日	青森市PTA研究大会 読書感想文コンクール 学校賞授与 女鹿沢小学校50周年記念式典 読書感想文コンクール 学校賞授与
平成25年1月	8日 10日 18日 19日 21日 26日	青森県立高等学校入学者選抜研究協議会 明日へはばたけあおもりっ子キャリア教育推進事業 発表会 市町村指導主事研修協議会 青森県体育功労者等表彰式 学校課題解決のための小・中連携推進事業研究指定校等連絡会議 たすけっこの会 訪問
2月	5日 24日 "	青森市PTA連合会、小・中学校長会と教育委員会との意見交換会 浅虫小学校閉校記念式典 全国児童才能開発コンテスト文部科学大臣 表彰式
3月	3日 15日 25日 27日 "	「平和の日」函館の集い 臨時青森市立小・中学校長会議 財団法人棟方志功記念館 理事会 青森市文化スポーツ振興公社 理事会 沖館中学校合唱部演奏会

## 2. 教育委員会事務の点検・評価

### (1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(以下「地教行法」という。)が改正され、平成20年4月から施行された。

改正地教行法では「教育委員会の責任体制の明確化」が規定されており、教育委員会が、毎年学識経験者の知見を活用しながら、その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価(以下「点検・評価」という。)を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表しなければならないと規定されている。

本報告書は、地教行法第27条第1項の規定に基づき、平成24年度の教育委員会の活動を振り返るとともに、教育委員会の主要施策について、教育委員会自らが点検・評価を行い、学識経験者の意見を付して作成し、報告するものである。

### (2) 点検・評価の対象

青森市新総合計画前期基本計画に掲げた基本政策第4章「歴史と文化を受け継ぎ 未来を創造する人を育むまち」に掲げられた施策ごとの指標(目標項目)に貢献する主な事務事業及び取組を抽出し、今回の点検・評価の対象とした。

#### 第4章「歴史と文化を受け継ぎ 未来を創造する人を育むまち」

政 策	施 策	対 象 数	
		事務事業	取組
第1節 学校教育の充実	1 教育活動の推進	12	10
	【目標指標】学習状況調査の県平均正答率(小学5年生)		
	【目標指標】学習状況調査の県平均正答率(中学2年生)		
	【目標指標】学校支援ボランティア数	0	2
	2 教育環境の充実		
	【目標指標】少人数学級制を実施している学年の割合		
3 就学指導・支援の充実	3	7	
【目標指標】教育相談への相談件数			
【目標指標】不登校から復帰した児童の割合			
第2節 社会教育・生涯学習の推進	1 社会教育活動・生涯学習活動の推進	10	3
	【目標指標】市民センター及び公民館で開催する教育活動の参加者数		
	2 青少年の健全育成	0	2
	【目標指標】JUMP チームに所属する児童生徒数		

第3節 文化・芸術の推進	1 文化・芸術活動の推進	4	7
	【目標指標】文化施設利用者数		
	2 郷土の文化資産の活用・継承	3	4
	【目標指標】文化資産を活用した事業の参加者数		
	3 文化財の保存・発信	6	8
	【目標指標】文化財を活用した事業の参加者数		
第4節 スポーツ・レクリエーションの推進	1 スポーツ・レクリエーション活動の推進	7	14
	【目標指標】スポーツ施設利用者数		
	2 ウィンタースポーツの推進	3	9
	【目標指標】ウィンタースポーツ事業の参加者数		
	【目標指標】ウィンタースポーツ施設利用者数	8	2
	3 競技力の向上		
【目標指標】体育指導員活動回数	8	2	
【目標指標】スポーツ賞及びスポーツ奨励賞受賞件数			
		56	68

### (3) 学識経験者

内 海 隆

公立大学法人青森公立大学経営経済学部教授

青森市社会教育委員

・八戸大学学長補佐、八戸短期大学副学長などを歴任

成 田 幾 末

青森人権擁護委員

・青森市立造道小学校校長、青森市小学校長会会長などを歴任

(4) 点検・評価方法

点検・評価に当たっては、平成27年度の目標に対する平成24年度の達成状況を参考にしながら、施策・事務事業の課題、問題点を明らかにするとともに、課題解決に向けた今後の方向性について検討した。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の規定に基き、教育に関し学識経験を有する外部評価員から様々な御意見、御助言をいただいた。

実施方法としては、市全体で実施した施策優先度評価表及び事務点検表を活用することとした。

「平成25年度 事務の点検及び評価表」凡例

<平成27年度目標指標設定の考え方>

青森市新総合計画前期基本計画に掲げた施策ごとの目標指標の設定を行った平成22年度当時の設定の考え方

指 標 名	方向	基準値	目標値 (H27)	実 績 値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	

方向： 「+」増加に向けて取り組む指標

「-」減少に向けて取り組む指標

基準値： 基準とする年度の値

目標値： 平成27年度の目標値

現時点での達成率： 平成27年度の目標値に対する平成24年度実績値の達成率

事 務 事 業		担当課	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	事業区分
事業番号	事務事業名		予算額	予算額	予算額	予算額	

事業区分： 「新規」平成25年度から、新たに実施する事務事業

「継続」平成24年度と比較し、事業の制度、内容の変更がない事務事業

「拡充」平成24年度と比較し、事業の制度、内容が拡充された事務事業

「縮小」平成24年度と比較し、事業の制度、内容が縮小された事務事業

「終了」平成24年度で終了（廃止・休止含む）する事務事業

### 3. 点検・評価結果

## 平成25年度 事務の点検及び評価表 政策第1節 学校教育の充実(1 教育活動の推進)

【目標指標】学習状況調査の県平均正答率との差(小学5年生)

<平成27年度目標指標設定の考え方>

県平均、類似都市(弘前市、八戸市)との比較した数値を考慮し、小学校においては、県平均を下回る年度が多いことから、県平均との差を縮め、安定して県平均を上回るような状態にするため、平成27年度は、ピークだった平成21年度の1.1ptを目標値としました。

指標名	方向	基準値			目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
		H22	H23	pt		H23	H24	H25	H26	H27	
学習状況調査の県平均正答率との差 (小学5年生)	+	H22	-1.8	pt	1.1	0.0	-1.1	**	**	**	24.1%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5080007	実践指導事例集作成事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080008	学校教育指導方針推進事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080009	学校訪問教育指導事業	指導課	210	200	196	233	継続
5080028	心豊かな子ども読書活動推進事業	指導課	137	137	222	222	継続
5080029	小・中連携教育課程研究開発事業	指導課	630	450	576	576	継続
5080032	教育研究所連盟事業(負担金)	指導課	21	21	21	21	継続
5080034	全国教育研究所連盟研究協議会参加事業	指導課	136	113	172	99	継続
5080035	教育展望セミナー参加事業	指導課	72	74	74	74	継続
5080044	市町村指導主事研修事業	指導課	45	40	60	32	継続
5080047	教職員研修事業	指導課	4,219	3,973	4,034	4,034	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
国語 (指導課)	-1.20 pt	0.10 pt	-0.30 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度における国語科の正答率低下の要因としては、条件作文などを書く機会が少ないことが考えられます。県平均正答率と比較して低い「書くこと」を向上させるためには、自分の考えを短時間(時数制限)で書きまとめる訓練を継続させたり、書く活動時に1時間の授業時間のねらいをはっきりとさせることが大切であり、その必要性を指導、助言してきました。 平成25年度は、学校訪問や研修講座を通して、国語科における言語活動の充実についての取り組み方を示し、国語科で身に付けた力を他教科等でも活用させたり、国語科の基盤となる言語事項を取り立てて指導したりすることを、各学校の教員にさらに求めています。					
社会 (指導課)	-1.70 pt	-0.50 pt	-1.00 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、社会科における正答率低下の要因として、地図や写真、棒グラフや円グラフなどの資料を的確に読み取ることができないこと、教師の説明中心の授業により、子どもの学習が受け身的になり、学習意欲の低下が見られること、一度学習したことの復習が不十分なことなどにより、基礎的・基本的な知識や技能が十分に定着していないことが考えられます。そのため、学校訪問や研修講座を通じて、資料の的確な読み取らせ方の指導の充実と、児童自身が問題意識をもちながら社会のしくみや出来事を意欲的に調べていく授業の構築を図るよう助言してきました。 平成25年度は、学校訪問や研修講座を通じて、資料の読み取り方の指導、作業及び体験活動などを積極的に取り入れ、知識と体験を関連付けた理解を図る指導、学習したことを繰り返し復習することなどを、各学校の教員にさらに求めています。					
算数 (指導課)	-3.10 pt	0.70 pt	-1.50 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、算数科における正答率低下の要因として、計算の技能に重点を置いたことにより、整数、少数、分数といった数の意味やいろいろな数の書き方の理解が十分に定着していないこと、数学的な思考力・判断力・表現力を育成するための児童同士の考えを表現し、伝え合う学習活動を積極的に取り入れていないことが挙げられます。そのため、学校訪問や研修講座を通じて、児童が目的意識をもって主体的に取り組む算数的活動の充実を図ることや児童の実態を把握して評価と指導を行うよう助言してきました。 平成25年度は、日常の授業で作業及び体験活動などを積極的に取り入れたり、学校全体で組織的・計画的に、繰り返し学習や学び直しの学習を行うよう各学校の教員に求めています。					
理科 (指導課)	-1.50 pt	-0.30 pt	-1.40 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、物質・エネルギー分野では、観察・実験結果を考察し、科学的な法則等を見つけ出す力を伸ばす必要があります。特にものの温まり方に関しては、物質による温まり方の違いについて習得した知識を定着させるために、物質の温まり方の法則について児童が教え合うような学習を通じ、習得した知識を活用する力を育てるよう助言してきました。 平成25年度は、観察・実験の技能においては、ある程度の定着が図られていることから、問題解決的な学習活動の中で観察・実験に取り組み、考察をまとめ表現させることによって確かな学力の定着を図るよう各学校の教員に求めています。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

【成果】

・小学校では、学習状況調査の県平均正答率との差は、全ての教科で県平均正答率を下回る結果となりましたが、各学校に指導主事を派遣し(学校訪問)、各学校の教員に具体的な対策等の指導や各種研修講座を開催したことにより、日々の授業の中で、児童の基礎的・基本的な知識や技能の習得や、思考力・判断力・表現力育成のための言語活動の充実が徐々に図られてきています。

【課題】

・小学校における学力の向上を図るために、基礎的・基本的な知識や技能の定着に向け、学習のフィードバック、過去の問題への分析や定期的な繰り返しなど、学習方法の指導を一層充実させる必要があります。  
・各学校で作成している学力向上のためのアクションプランの実践、評価、改善をチェックすることが必要です。

【今後の方向性】

・児童の基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るため、学校訪問や研修講座を通して、ドリル学習の徹底や、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりについて、各校の先生方と優れた実践例の共有を図りながら指導・助言していきます。  
・確かな学力の育成のため、各学校で作成している学力向上のためのアクションプランの進捗状況や改善点等を把握し、アクションプランが適切に実施されるよう、きめ細かな指導・助言を行います。特に、確かな学力を「わからないことがわかるための学力」、「学んだことを忘れないための学力」の二側面から捉えた場合、「学んだことを忘れないための学力」の育成に重点を置きます。

【目標指標】学習状況調査の県平均正答率との差（中学2年生）

<平成27年度目標指標設定の考え方>

県平均、類似都市（弘前市、八戸市）との比較した数値を考慮し、中学校においては、全ての教科で県平均正答率を上回っていることから、ピークだった平成20年度の4.3ptを目標値としました。

指標名	方向	基準値	目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	
学習状況調査の県平均正答率との差 (中学2年生)	+	H22 3.6 pt	4.3	4.0	3.5	**	**	**	81.4%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5080007	実践指導事例集作成事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080008	学校教育指導方針推進事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080009	学校訪問教育指導事業	指導課	210	200	196	233	継続
5080028	心豊かな子ども読書活動推進事業	指導課	137	137	222	222	継続
5080029	小・中連携教育課程研究開発事業	指導課	630	450	576	576	継続
5080032	教育研究所連盟事業（負担金）	指導課	21	21	21	21	継続
5080034	全国教育研究所連盟研究協議会参加事業	指導課	136	113	172	99	継続
5080035	教育展望セミナー参加事業	指導課	72	74	74	74	継続
5080044	市町村指導主事研修事業	指導課	45	40	60	32	継続
5080047	教職員研修事業	指導課	4,219	3,973	4,034	4,034	継続
5080049	外国青年（語学指導員）招致事業	指導課	35,017	52,425	74,532	71,870	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
国語 (指導課)	1.70 pt	1.80 pt	0.10 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、学校訪問や研修講座を通し、「聞くこと」の領域について若干課題がみられることから、指導事項を明らかにした上で具体的な場面を設定し、言語活動に取り組みさせるよう指導を継続しました。 平成25年度は、正答率が低い「書くこと」の領域について、図表などから読み取ったことをもとに自分の考えを指定された字数を時間内で書く訓練に取り組むとともに、幾つかの条件設定の中で短作文を書くことを繰り返したり、ポスターやチラシについて、批評したりキャッチコピーを書いてみるなどの言語活動を通して、指導事項を身に付けさせることを徹底するよう指導主事が各学校の教員に指導・助言しています。					
社会 (指導課)	3.30 pt	4.10 pt	4.20 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、基礎的・基本的な知識、技能の確実な習得、思考力・判断力・表現力を育成するための言語活動の充実を研修講座や学校訪問等を通して繰り返し伝えてきた結果、正答率は上昇しました。また、これまで課題であった「資料活用技能」についても改善しました。 平成25年度は、表に示された数値の読取や割合等の計算を伴う問題に課題が見られることから、数学科との関連を図った指導や作業的・体験的な学習により、知識と体験を関連付けて理解できるようにする指導等の優れた実践例を各学校の教員に紹介しています。					
数学 (指導課)	3.70 pt	4.90 pt	5.70 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、学校訪問や研修講座を通して、数学的活動の充実について、思考過程をノートに記述したり、自分の考えやその根拠を筋道立ててわかりやすく説明したり、各自の考えを伝え合ったりするなど、言語活動を重視するよう繰り返し指導・助言してきたところ、正答率は上昇しました。 平成25年度は、正答率が低い傾向にある図形分野の指導について、具体物を用いて展開図や見取図を書かせたり、模型を用いたり、実験による測定を行ったりして確かめるなど、知識と体験を関連付けて理解できるようにすることを各学校の教員にさらに求めています。					
理科 (指導課)	4.40 pt	4.00 pt	4.30 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、全ての領域及び観点で県の正答率を上回りました。しかし、実験観察の技能においては、実験の目的や留意点を説明することを苦手としていることから、目的意識を持った実験観察ができるように助言しました。 平成25年度は、「化学変化と原子・分子」の領域では、科学的な用語を図やモデルを利用して、概念の可視化による理解を深め、説明できるよう、ペアやグループにおける話し合い活動や教え合い活動を充実するよう各学校の教員に求めています。					
英語 (指導課)	4.90 pt	5.40 pt	3.40 pt	** pt	** pt	** pt
	平成24年度は、単語や文構造の定着が図られ、「書くこと」の領域も県の正答率を大きく上回りました。 平成25年度は、他領域と比較すると、「書くこと」の領域が落ち込んでいることから、入門期において、小学校外国語活動で培われたコミュニケーションに対する意欲を活かしながら、「聞く・話す」活動を通して音声に十分慣れ親しませたうえで、文字指導を丁寧にしていくことが必要です。段階を追って、「読む・書く」活動の充実を図りながら、言語活動を通して文法の定着を図り、具体的な場面設定の下で活用させるコミュニケーション活動を行うことで、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に育成し、コミュニケーション能力の向上を図るよう各学校の教員に求めています。					



(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校では、各学校に指導主事を派遣し(学校訪問)、各教科の課題等に対する具体的な対策等の指導や各種研修講座を開催したことにより、全ての教科で県平均正答率を上回る状態を維持することができましたが、学習状況調査の県平均正答率との差は、基準値を下回りました。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における学力の更なる向上を図るために、基礎的・基本的な知識や技能の定着に向け、学習のフィードバック、過去の問題への分析や定期的な繰り返しなど、学習方法の指導を一層充実させると共に、教員の指導力の向上を図る必要があります。</li> <li>・各学校で作成している学力向上のためのアクションプランの実践、評価、改善をチェックする必要があります。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るため、学校訪問や研修講座を通して、ドリル学習の徹底や、思考力・判断力・表現力を育成する授業づくりについて、各学校の教員と優れた実践例の共有を図りながら指導・助言していきます。</li> <li>・確かな学力の育成を目指し、学校訪問や研修講座を通して、全校体制で教員の指導力の向上を図ると共に、少人数指導や個別指導など指導の工夫と時間の確保に努めます。</li> <li>・確かな学力の育成のため、各学校で作成している学力向上のためのアクションプランの進捗状況や改善点等を把握し、アクションプランが適切に実施されるよう、きめ細かな指導・助言を行います。特に、確かな学力を「わからないことがわかるための学力」、「学んだことを忘れないための学力」の二側面で捉えた場合、「学んだことを忘れないための学力」の育成に重点を置きます。</li> </ul>
--

【目標指標】 学校支援ボランティア数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

小・中学校ともに100%、全ての学校で学校支援ボランティアの実施を目指します。

毎年、1校当たり2名の増員(「ゲストティーチャー」「学習アシスタント」を各1名ずつ増員)を目指します。

指標名	方向	基準値	目標値(H27)	実績値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	
学校支援ボランティア数	+	H22 2,356 人	3,046	2,604	2,821	**	**	**	92.6%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業区分
5010089	学校支援地域本部事業	社会教育課	12,291	3,675	4,382	3,925	拡充

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
学校支援地域本部事業実施校の割合(社会教育課)	10/70 校	22/69 校	26/67 校	** 校	** 校	** 校
	地域の協力を必要としている全ての学校での事業実施を目指し、平成22年度の10校から平成23年度は22校に実施校が増加しています。平成24年度においても26校で実施しており、学校支援地域本部事業の実施校の割合は、順調に増加しています。 平成25年度も引き続き、教育委員会と各学校が連携して課題解決に一緒に取り組みます。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援地域本部事業実施校の拡充により、学校支援ボランティア数が順調に増加し、学校と家庭、地域との連携が図られ、学校への支援体制が充実してきた結果、学校支援ボランティア数は、前年度を上回りました。</li> <li>・教育活動における、ゲストティーチャーや学習アシスタントの活用など、学校支援地域本部事業実施校以外においても、家庭・地域との連携を図った取組を行う学校が増加しています。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアの活用により地域全体で子どもを育てる体制づくりを更に推進していく必要があります。</li> <li>・学区支援活動の充実を図るため、各学校の活動事例の情報共有等により、新たなボランティアを確保することと、学校支援コーディネーターの確保と資質を向上させることが必要です。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の意向を把握しながら、学校支援地域本部事業実施校の更なる拡充に取り組んでいきます。</li> <li>・各学校の活動事例を紹介する情報誌の発行や学校支援コーディネーターの情報交換会を通じ、学校支援活動を広くPRすることにより、新たなボランティアの確保に努め、学校支援コーディネーターの資質向上を図り、学校活動の充実を推進します。</li> </ul>
--

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
**【政策第1節 学校教育の充実（2 教育環境の充実）】**

**【目標指標】 少人数学級編制を実施している学年の割合**

<平成27年度目標指標設定の考え方>

小・中学校全9学年に対する少人数学級編制を実施している学年の割合を目標として、平成23年度に制度・体制を整備し、平成24年度から段階的に33人学級の実施を想定し、平成24年度 小3、平成25年度 小4、平成26年度 小5、平成27年度 小6として、平成27年度は、小学校における33人学級を目指します。

指 標 名	方向	基準値			目標値	実 績 値					現時点での達成率
		H22	H23	H24	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27	
少人数学級編制を実施している学年の割合	+	H22	33.3	%	77.8	44.4	44.4	**	**	**	57.1%

**(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業**

事務事業		担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
事業番号	事務事業名						
	当該事業なし						

**(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況**

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
市単独教員の採用 (学務課)	0 人	0 人	0 人	** 人	** 人	** 人
教育環境の向上を図るため、市としての33人学級編制実施に向けた関係部局との協議を進めてきましたが、市では、国や県において少人数学級編制を推進する動きもあり、本市の厳しい財政状況の下、現段階で先行的に実施することはできないと判断し、国・県の制度での実施を目指すこととしました。						
国・県などへの要望 (学務課)	0 回	8 回	8 回	** 回	** 回	** 回
国及び県に対し、関係団体と連携しながら、少人数学級編制の計画的な実施について強く働きかけていきます。 【H25実績見込】青森県市長会、中核市市長会、東北市長会、青森県市町村長会議、青森県都市教育長協議会、中核市教育長会、全国市町村教育委員会連合会、青森県市町村教育委員会連絡協議会						

**(3) 教育委員会の点検及び評価の結果（総合評価）**

<p><b>【成果】</b></p> <p>・教育環境の向上を図るため、市としての33人学級編制実施に向けた関係部局との協議を進めてきましたが、市では、国や県において少人数学級編制を推進する動きもあり、本市の厳しい財政状況の下、現段階で先行的に実施することは困難と判断し、国・県の制度での実施を目指すこととしたことから、少人数学級編制を実施している学年の割合は、前年度と同じとなりました。また、少人数学級の早期実施に向け、国及び県に対して強く働きかけました。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>・教育環境の向上を図るため、少人数学級編制を計画的に実施する必要があります。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>・33人学級編制について、引き続き、小・中学校全学年実施に向け、関係団体と連携を図りながら、国や県に対し、少人数学級編制の計画的な実施を強く働きかけます。</p> <p>・各小・中学校において、加配教員等を活用しながら、複数の教員で指導する、チーム・ティーチングや少人数指導等による指導の工夫と改善に努めます。</p>
--

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
**【政策第1節 学校教育の充実（3 就学指導 支援の充実）】**

**【目標指標】 教育相談への相談件数**  
 <平成27年度目標指標設定の考え方>

一概に相談件数の増加が良いものとして判断はできませんが、気軽に相談できる体制や窓口の設置状況の判断の目安として相談件数を設定しました。

目標値の設定は、平成18年度と平成19年度に、全国でいじめによる自殺の社会問題が深刻化し、児童生徒はもとより保護者の危機感が高まり、その結果、相談件数が多かったものの、平成20年度から平成22年度は、いじめによる自殺問題が落ち着き、平常になっています。平成20年度から平成22年度(見込)までの年平均増減値(110件)を基準に相談件数を増加させます。

指標名	方向	基準値	目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	
教育相談への相談件数	+	H21 4,176 件	4,620	3,186	3,503	**	**	**	76.0%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事務事業		担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
事業番号	事務事業名						
5080022	教育相談適応指導事業	指導課	287	286	287	232	継続
5080023	スクールカウンセラー配置事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080056	問題を抱える子ども等の自立支援事業	指導課	1,949	1,330	1,154	1,140	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
教育相談(研修センター) (指導課)	3,428 件	2,343 件	2,696 件	** 件	** 件	** 件
	就学指導に関する研修講座の充実と教育相談員による学校訪問により相談件数が減少傾向にありましたが、平成24年度は増加しました。教育相談員(6名)や臨床心理士(1名)が、不登校などの問題を抱える保護者、教職員、幼児児童生徒を対象に教育相談や適応指導を通して学校復帰、社会参加、自立を促し、豊かな心の育成を図っています。平成25年度は、広報あおもりや市教育研修センターのホームページを通して、保護者、教職員、児童生徒に対して、教育相談について周知を図っています。					
スクールカウンセラー (指導課)	748 件	843 件	807 件	** 件	** 件	** 件
	平成24年度は、県から中学校16校、小学校8校に配置されたスクールカウンセラーによる教育相談を通して、児童生徒・保護者の不安を軽減・解消したり、実技研修を通して教職員の教育相談に関する資質を向上させたりすることで、児童生徒の社会性の育成を図りました。スクールカウンセラーが配置されていない学校には、学校の求めに応じてカウンセリングアドバイザー(1)を派遣しました。平成25年度も、引き続きスクールカウンセラー及びカウンセリングアドバイザーによる教育相談の充実を図っています。					
教育相談(各学校訪問) (指導課)	- 件	- 件	- 件	** 件	** 件	** 件
	平成24年度は、適応指導教室に通級している不登校生徒の学校復帰に向けて、学校との連携を深めるため、教育相談員と指導主事が中学校13校(延べ19回)を訪問し、情報交換及び指導・助言を延べ29件行いました。ただし、これは来室相談、電話相談でないため相談件数の中には含まれていません。平成25年度も、教育相談員と指導主事が学校を訪問し、教育委員会と学校が連携して不登校生徒の学校復帰に向けて取り組んでいます。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや不登校などの問題を抱える児童生徒等の不安解消については、スクールカウンセラー等による教育相談や教育相談員、指導主事の学校訪問による情報交換を行うとともに、教育相談室の周知に努めた結果、教育相談への相談件数は、前年度を上回りました。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ・不登校など問題を抱える児童生徒等の早期発見、早期解決、再発防止を図るため、気軽に相談できる体制や教育相談についての周知を図り、家庭や学校との情報連携に努めるなど、きめ細かな相談・支援体制を引き続き充実させ、児童生徒や保護者の不安軽減を図る必要があります。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめや不登校等の問題を抱える児童生徒等の早期発見、早期解決、再発防止を図るため、引き続き、いじめ相談カードやいじめ防止の保護者向けパンフレットを作成し、配布するなど、気軽に相談できる体制や教育相談についての周知を徹底します。</li> <li>教育相談員や指導主事による学校訪問を通して、学校と家庭との情報連携に努めるとともに、研修講座や家庭教育学級を通して、いじめや不登校等の未然防止に向けた助言を行い、引き続き、きめ細かな相談・支援体制の充実と児童生徒や保護者の不安軽減を図ります。</li> </ul>
---

1 カウンセリングアドバイザーとは、臨床心理士の資格を有しており、児童・生徒自身の悩みや、児童・生徒の問題行動に対する保護者、学校関係者等からの相談を受ける者です。また、学校の要請を受け、不審者による、被害を受けた児童・生徒への心のケアを行っております。

【目標指標】不登校から復帰した児童の割合  
 <平成27年度目標指標設定の考え方>

不登校から復帰した児童の割合は、平成22年度の見込み値が約34.8%であったことから、平成27年度は年平均増減+2.2%の45.8%を目標値としました。

指標名	方向	基準値		目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27		
不登校から復帰した児童の割合	+	H21	61.1 %	45.8	39.0	33.9	**	**	**	74.0%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事務事業		担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
事業番号	事務事業名						
5080022	教育相談適応指導事業	指導課	287	286	287	232	継続
5080023	スクールカウンセラー配置事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080056	問題を抱える子ども等の自立支援事業	指導課	1,949	1,330	1,154	1,140	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
教育相談(研修センター) (指導課)	3,428 件	2,343 件	2,696 件	** 件	** 件	** 件
	就学指導に関する研修講座の充実と教育相談員による学校訪問により相談件数が減少傾向にありましたが、平成24年度は増加しました。教育相談員(6名)や臨床心理士(1名)が、不登校などの問題を抱える保護者、教職員、幼児児童を対象に教育相談や適応指導を通して学校復帰、社会参加、自立を促し、豊かな心の育成を図っています。平成25年度は、広報あおもりや市教育研修センターのホームページを通して、保護者、教職員、児童に対して、教育相談について周知を図っています。					
スクールカウンセラー (指導課)	748 件	843 件	807 件	** 件	** 件	** 件
	平成24年度は、県から小学校8校に配置されたスクールカウンセラーによる教育相談を通して、児童・保護者の不安を軽減・解消したり、実技研修を通して教職員の教育相談に関する資質向上させたりすることで、児童の人間性、社会性の育成を図りました。スクールカウンセラーが配置されていない学校には、カウンセリングアドバイザーを派遣しました。平成25年度も、引き続きスクールカウンセラー及びカウンセリングアドバイザーによる教育相談の充実を図っています。					
学校訪問 (指導課)	50 校	49 校	49 校	** 校	** 校	** 校
	平成24年度は、指導主事が全小学校を訪問し、不登校児童や登校しぶりの実態を把握し、それに対応した指導や家庭との連携を深める手法等について情報交換及び指導・助言を行っています。平成25年度も、引き続き全小学校を訪問し、不登校の未然防止や個々の児童の情報交換、復帰に向けた取組についての助言を行っています。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校など問題を抱える児童や保護者、教員を対象に、教育相談員や臨床心理士による教育相談や適応指導を通して学校復帰、社会参加、自立を促すとともに、教育委員会と学校、保護者が連携して、家庭訪問や教育相談等を行い、児童の学校復帰を目指しましたが、不登校から復帰した児童の割合は、前年度を下回りました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の原因が複雑化・多様化していることから、これら問題を抱える児童に対する支援体制については、気軽に相談できる体制や教育相談についての周知、家庭や学校、関係機関との情報共有・連携など、現在の取組を継続しながら、更に充実させる必要があります。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を抱える児童に対して、引き続き、教育相談員による学校訪問やスクール・カウンセラーによる教育相談を充実させ、実態に応じた、きめ細かな指導・助言を行うとともに、家庭や地域、関係機関等との情報共有・連携を強化します。</li> <li>・小・中連携事業を活用し、小学校と中学校の教職員間での共通理解を図ると共に、学校全体での協力体制を強化し、支援体制の充実を図ります。</li> <li>・不登校を生み出さないための未然防止や初期対応についての研修講座を実施し、教員の資質の向上を図ります。</li> </ul>
---

【目標指標】不登校から復帰した生徒の割合

<平成27年度目標指標設定の考え方>

不登校から復帰した生徒の割合は、平成22年度の見込み値が27.2であることから、平成27年度は、年平均増減+1.2%の33.2%を目標値としました。

指標名	方向	基準値		目標値	実績値					現時点での達成率	
		H21	H22	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
不登校から復帰した生徒の割合	+	H21	28.9	%	33.2	40.3	34.6	**	**	**	104.2%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事務事業		担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
事業番号	事務事業名						
5080022	教育相談適応指導事業	指導課	287	286	287	232	継続
5080023	スクールカウンセラー配置事業	指導課	0	0	0	0	継続
5080056	問題を抱える子ども等の自立支援事業	指導課	1,949	1,330	1,154	1,140	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
適応指導教室(研修センター) (指導課)	19人	16人	13件	**件	**件	**件
平成24年度は、学校に行きたくても行けない不登校の生徒を対象に、カウンセリング、教科指導、集団生活への適応指導などを行い、13人の生徒が学校復帰・部分登校することができました。 平成25年度も、カウンセリングや教科指導、集団生活への適応指導など、学校への復帰に向けた取組を継続しています。						

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

【成果】

・不登校など問題を抱える生徒や保護者、教員を対象に、教育相談員や臨床心理士による教育相談や適応指導を通して学校復帰、社会参加、自立を促すとともに、教育委員会と学校、保護者が連携して、家庭訪問や教育相談等を行い、生徒の学校復帰を目指しましたが、不登校から復帰した生徒の割合は、前年度を下回りました。

【課題】

・不登校の原因が複雑化・多様化していることから、これら問題を抱える生徒に対する支援体制については、気軽に相談できる体制や教育相談についての周知、家庭や学校、関係機関との情報共有・連携など、現在の取組を継続しながら、更に充実させる必要があります。

【今後の方向性】

・問題を抱える生徒に対して、引き続き、教育相談員による学校訪問やスクール・カウンセラーによる教育相談を充実させ、実態に応じた、きめ細かな指導・助言を行うとともに、家庭や地域、関係機関等との情報共有・連携を強化します。  
・小・中連携事業を活用し、小学校と中学校の教職員間での共通理解を図るとともに、学校全体での協力体制を強化し、支援体制の充実を図ります。  
・不登校を生み出さないための未然防止や初期対応についての研修講座を実施し、教員の資質の向上を図ります。



**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 政策第2節 社会教育 生涯学習の推進 (1 社会教育活動 生涯学習活動の推進)

**【目標指標】 市民センター及び公民館で開催する教育活動の参加者数**

<平成27年度目標指標設定の考え方>

平成23年度以降については、子ども向けの事業(子ども広場1,000人)、団塊世代講座(100人)の開催を予定していることから、平成22年度(見込)93,000人に1,100人を加えた94,100人を平成27年度の目標としました。

浪岡地区においては、地区住民の高齢化、人口の減少に伴い大幅な増加は見込めない状況にあるため、平成18～21年度の実績の最高値25,140人を平成27年度の目標値としました。

指 標 名	方向	基準値		目標値	実 績 値					現時点での達成率	
		H21	H22	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
市民センター及び公民館で開催する教育活動の参加者数	+	H21	114,610	人	119,240	110,774	94,374	**	**	**	79.1%

**(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業**

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5010100	生涯学習情報提供事業	社会教育課	74	80	65	65	継続
5010101	生涯学習推進員設置事業	社会教育課	1,620	3,250	3,250	3,250	継続
5012009	生涯学習支援事業(中央市民センター)	中央市民センター	4,786	4,551	3,432	3,016	継続
5012010	プラネタリウム運営事業	中央市民センター	1,393	1,392	1,378	1,344	継続
5012014	少年少女発明クラブ支援事業(補助金)	中央市民センター	341	341	277	248	継続
5012016	生涯学習支援事業(地区市民センター)	中央市民センター	6,541	6,584	6,584	5,965	継続
5090010	養魚場活動事業	教育課	14	14	14	14	継続
5090012	山の家活動事業	教育課	184	184	184	184	継続
5090016	社会教育団体支援事業(補助金)	教育課	1,482	1,482	1,200	1,080	継続
5090017	浪岡公民館まつり支援事業(補助金)	教育課	540	540	437	393	継続

**(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況**

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
青森中央市民センター及び分館(中央市民センター)	38,146 人	34,194 人	20,292 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、「キッズスクール」を開始し、より多くの講座メニューの中から子どもたちが講座を選べるようにしました。また、新たに夜間・土日の市民スクール開催や大人の映画会などを開設し、幅広い年代の方が余暇を利用して、生涯学習に親しめるよう取り組みましたが、4月から9月までの耐震補強工事と消防設備工事により、講座・プラネタリウムの開催や市民センターまつりなどにおいて参加者数が前年度を下回りました。 平成25年度は、参加者の増加を図るためニーズを把握しながら、ライフスタイルの変化に適応した講座を増やすとともに、マンネリ化を防ぐために新しい講座や講師を取り入れるなど様々な学習機会を提供しています。						
青森其他地区市民センター(中央市民センター)	51,324 人	56,110 人	54,463 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、各地区市民センターでは、女性大学参加者や、市民センターまつり参加者の変動などにより、全体的な参加者数は少し減りました。 平成25年度は参加者数の回復を目指し、それぞれの地区における特色あるイベントや利用者ニーズに沿った各種講座を企画して事業を展開しています。						
浪岡地区公民館(教育課)	25,140 人	20,470 人	19,619 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、浪岡中央公民館、地区公民館(北中野、本郷、野沢、女鹿沢、大杉)において高齢者講座(軽スポーツ・移動学習・手工芸等)、趣味講座(パソコン・書道・手工芸・料理等)、青少年講座(手工芸・キャンプ・お菓子作り・軽スポーツ等)などの事業を実施しました。また、各公民館において公民館まつりも実施しました。参加者数の減少については、地域人口の減少と考えられます。年々、地域の児童数が減っており、児童及び児童の父母、祖父母を対象とした事業への参加者が減少しています。 平成25年度は、これまで好評であった講座の継続及び地域の各種団体との連携事業を積極的に展開し、地域住民の生涯学習への振興を図っています。						

**(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)**

<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズスクールや大人の映画会、女性大学、大学院や寿大学、大学院など幅広い年代層に対応した事業を展開する中、新たに夜間・土日の市民スクールを開催するなど、受講者ニーズを把握しながら、ライフスタイルの変化に適応した講座やマンネリ化を防ぐための新しい講座を取り入れるなど、様々な学習機会の提供に努めましたが、中央市民センターの耐震工事等の影響により、教育活動への参加者数は、前年度を下回りました。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各市民センターや公民館等を利用する多くの登録団体や講座受講者は、自ら学んだ成果を地域において生かしていく必要があります。</li> <li>・新たに設置した社会教育委員による社会教育・生涯学習の更なる充実など、学習活動の推進や多様な主体との連携に向けて取り組む必要があります。</li> <li>・現代的・社会的な課題等に対応した学習機会の充実を図るため、社会教育委員の会議の意見や生涯学習推進員、社会教育主事等を活用した講座の企画立案や事業の展開方法などを、地区市民センターの事業へ広げ、さらに拡充していく必要があります。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体や講座受講者が、社会教育・生涯学習活動への意識を高め、ボランティア意欲を持たせるなどすることで、自らが学んだ成果を広く地域に還元できるように、各市民センターや公民館等がコーディネートしていくよう努めます。また、大学などの高等教育機関やNPO団体など、多様な主体との連携による学習機会の提供を図ります。</li> <li>・学習情報の提供など、市民の学習活動を支援する環境づくりに継続して取り組むほか、今後は社会教育委員の会議の意見などを事務事業の取組に反映させるよう努めることで、社会教育・生涯学習の更なる充実を図ります。</li> </ul>
--

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 政策第2節 社会教育・生涯学習の推進(2 青少年の健全育成)

【目標指標】 JUMPチームに所属する児童生徒数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

小学校においては、平成23年度からリトルJUMPチーム(1)が結成されます。現在、JUMPチームに所属する中学校生徒がここ5年間で550人前後で固定化しています。今後、1年ごとに小学校を2校ずつ増し、小学校1校につき5名増加することを目指し、平成27年度の目標値を608人としました。

指標名	方向	基準値			目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
		H22	H23	H24		H25	H26	H27			
JUMPチームに所属する児童生徒数	+	H22	558	人	608	599	724	**	**	**	119.0%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事務事業		担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
事業番号	事務事業名						
	該当事業なし						

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
所属する児童がいる学校の割合 (指導課)	0/70 校	3/69 校	8/69 校	** 校	** 校	** 校
	平成22年度までは、小学校でのJUMPチーム結成の例がなく、リトルJUMPチームを周知することからスタートしました。徐々に学校の理解が得られ始め、平成24年度は8校が参加し、191名が所属しました。平成25年度は、全ての小学校でリトルJUMPチームが結成されました。					
小・中連携して取り組んでいる中学校の割合 (指導課)	校	3/20 校	8/20 校	** 校	** 校	** 校
	公立の全中学校20校においてJUMPチームが結成されており、平成24年度は、533名がJUMPチームに所属しました。平成25年度は、相互の活動状況を情報交換するなど、小・中学校で連携した活動の充実を図っています。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少年非行防止JUMPチームは、全ての中学校で結成されており、小学校においてもリトルJUMPチームが新たに5校で結成され、子どもたち自ら非行防止を呼びかけるなど、JUMPチームが青少年の健全育成に取り組みました。また、JUMPチーム(リトルJUMPチーム)に所属する児童生徒数は、目標値を上回りました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い世代(高校生や大学生、一般)への活動の浸透を図るとともに、JUMPチーム(リトルJUMPチーム)の情報交換会や他の組織との連携を図り、各学校の活動内容の充実を図る必要があります。</li> <li>中学校学区を中心に小学校と連携したJUMPチーム(リトルJUMPチーム)活動内容の充実が求められています。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JUMPチーム(リトルJUMPチーム)の活動について、広い世代(高校生や大学生、一般)への活動の浸透を図ると共に、JUMPチーム(リトルJUMPチーム)間の情報交換を進めたり、他の組織との連携を図るなど、各学校の活動内容の充実と周知を図ります。</li> <li>JUMPチームによる中学校と高校の連携や、中学校と小学校の連携等、活動内容の充実を図ります。</li> </ul>
--

1 JUMPチームとは、各警察署長から委嘱を受けた、小・中・高校生が学校内外で活動を行う少年非行防止チームの名称です。少年非行の悪化の一つの要因となっていると思われる少年自身の「規範意識の低下」を防ぐために、中学生・高校生が、お互いに非行防止について呼びかけ、その活動を通じて学校の仲間、さらには地域の方々も一緒になって、県内全体に非行防止の輪が広がることを目的に、平成11年から結成されています。また、平成23年度からは、小学生が「リトルJUMPチーム」として委嘱されています。

「JUMP」の由来は、英語の

- ・ JUVENILE (ジュベナイル) = 少年
- ・ MISCONDUCT (ミスコンダクト) = 非行
- ・ PREVENTION (プリベンション) = 防止

の頭文字をとっており、「少年非行防止」と「少年達の飛躍(JUMP)」の意味が込められています。

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 政策第3節 文化・芸術の推進(1 文化・芸術活動の推進)

【目標指標】文化施設利用者数  
 <平成27年度目標指標設定の考え方>

各施設とも過去の利用者数の推移を勘案し、年間平均増加数または過去の最高値を平成27年度の目標値としました。

指標名	方向	基準値	目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	
文化施設利用者数	+	H21 578,917 人	745,798	634,718	624,406	**	**	**	83.7%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011007	文化振興施設運営管理事業(文化振興事業)	文化スポーツ振興課	23,137	23,137	23,137	8,744	継続
5011008	文化振興施設運営管理事業(文化施設管理)	文化スポーツ振興課	367,226	361,051	372,894	308,238	継続
5090005	中世の館運営管理事業(施設管理運営事業)	教育課	26,876	26,956	26,583	26,013	継続
5090006	中世の館運営管理事業(文化振興事業)	教育課	727	727	727	867	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
リンクステーションホール青森(文化会館)利用者数 (文化スポーツ振興課)	296,027 人	348,079 人	338,495 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度はコンベンションなどの全国大会など大規模催事の減少や、指定管理者の自主事業の集客数の減少等により利用者数が減少したものの、ホームページにホールの空き状況を掲載する等利用者数の増加に努めました。平成25年度は、引き続き、魅力的な事業の企画内容を検討するほか、ホームページ等の広報媒体を活用し施設の周知に努めています。						
市民ホール(文化交流ホール)利用者数 (文化スポーツ振興課)	145,075 人	148,612 人	154,996 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度はギャラリーにおいて、市所蔵作品の展示や市内アーティストに発表の場を提供するストリート・ミニ・ミュージアムの開催のほか、ホームページにホールの空き状況を掲載する等利用者数の向上に努めました。平成25年度は、引き続き、魅力的な事業の企画内容を検討するほか、様々な広報媒体を活用し施設の周知に努めています。						
市民美術展示館利用者数 (文化スポーツ振興課)	118,927 人	117,407 人	113,104 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は書道団体等の展示規模、集客数の減少に伴い、利用者数が減少したものの、青森市所蔵作品展示等の実施やホームページに施設の空き室状況を掲載する等利用者数の向上に努めました。平成25年度は、引き続き、魅力的な事業の企画内容を検討するほか、様々な広報媒体を活用し施設の周知に努めています。						
合浦亭利用者数 (文化スポーツ振興課)	650 人	800 人	893 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は施設利用者の増加を図るため、合浦公園の春祭りに合わせ、関係団体と連携し、「お花見茶会」を指定管理者の自主事業として実施するなど利用者数の増加に努めました。平成25年度は、引き続き、魅力的な事業の企画内容を検討するほか、様々な広報媒体を活用し施設の周知に努めています。						
中世の館利用者数 (教育課)	17,031 人	17,725 人	14,762 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、事業参加者や施設利用者の要望をもとに、指定管理者の自主事業「田中忠三郎コレクション展」などの各種事業を実施しました。施設利用者については、例年、中世の館を練習あるいは発表会等に利用していた数団体からの施設利用がなかったため、減少しました。平成25年度は、引き続き、指定管理者の自主事業として、魅力的な事業の企画内容を検討するほか、施設の周知に努めています。						
浪岡城跡案内所(ホール) (教育課)	160 人	498 人	293 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、昨年に引き続き指定管理者の自主事業「お花見コンサート」などを実施しましたが、天候の影響を受け、利用者が減少しました。平成25年度は、引き続き、企画内容を検討し、新規自主事業を開催や施設の周知に努めています。						
浪岡城跡案内所(ガイダンス) (教育課)	1,047 人	1,597 人	1,863 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、平成23年度中に作成した史跡散策用リーフレットが有効活用され、史跡浪岡城跡を訪れる個人利用者が増加しました。平成25年度は、引き続き、施設の周知に努めています。						



### (3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

#### 【成果】

・著名なアーティストや劇団などの公演の開催や支援を行うなど、文化・芸術を鑑賞できる機会の充実に努めるとともに、催事ごとのアンケート実施や意見箱を設置し市民ニーズの把握に努め、文化施設の空き状況を情報提供するなど取り組みましたが、大規模催事の減少等により、文化施設利用者は、前年度を下回りました。

#### 【課題】

・文化施設においては、文化・芸術の拠点づくりを進めるため、アンケート結果を事業等に反映させるなど、市民ニーズに即した取組を行う必要があります。

・次代の文化・芸術活動を担う人材育成のため、子どもたちが文化・芸術に触れる機会の提供を充実させるよう、これまで以上に文化事業の周知活動に取り組む必要があります。

・相乗効果が期待できる市の観光イベントと連携した取組を検討する必要があります。

#### 【今後の方向性】

・美術、音楽、演劇の鑑賞機会の充実や市民や市民団体等への活動支援、文化・芸術の拠点づくりなどの方策を継続的に取り組み、広報あおもりやホームページにおいて文化芸術鑑賞事業等のPRを行うとともに、市民ニーズに即した取組等を検討し実施します。

・次代の文化・芸術活動を担う人材育成のため、学校に向け、関係機関が実施する体験ワークショップ等文化事業に関する情報提供に努めるとともに、日頃の文化活動の活動成果発表の場を提供するなど、文化・芸術に触れ親しむ機会の充実を図ります。

・市の観光イベントと連携した文化芸術関連事業の開催など、多くの方々に参加いただけるような取組の検討を行います。

・中世の館や浪岡城跡の歴史的背景に関連する都市との連携した情報提供や事業展開についての検討に引き続き取り組みます。

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 【政策第3節 文化 芸術の推進(2 郷土の文化資産の活用 継承)】

**【目標指標】文化資産を活用した事業の参加者数**

＜平成27年度目標指標設定の考え方＞

各施設とも過去の参加者数の推移を勘案し、平成27年度は年間平均増加数を加えた10,528人を目標値としました。

指 標 名	方向	基準値	目標値 (H27)	実 績 値					現時点での達成率
				H23	H24	H25	H26	H27	
文化資産を活用した事業の参加者数	+	H21 9,970 人	10,528	9,867	8,946	**	**	**	85.0%

**(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業**

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011001	市所蔵美術品活用事業	文化スポーツ振興課	0	0	0	0	継続
5090004	小学生芸術鑑賞教室事業	教育課	1,370	1,370	1,279	1,106	継続
5090008	浪岡舞台演劇公演支援事業(補助金)	教育課	270	270	243	197	継続

**(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況**

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
市所蔵美術品活用事業 (文化スポーツ振興課)	2,656 人	2,250 人	4,144 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度の市所蔵作品展においては、棟方志功記念館や版画の街・あおもり実行委員会と連携した棟方志功展をはじめ、阿部合成展に人気が集まり、前年度に比べ、来場者が増加しました。 平成25年度は、引き続き、展示内容等を工夫したりするなど、文化資産のさらなる活用を図っています。					
中世の館文化資産活用 事業 (教育課)	5,693 人	6,043 人	3,301 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、文化財資産活用事業に重点を置いて事業展開したため、例年、文化資産活用事業として実施してきた絵画展を開催できなかったことから、来場者数が減少しました。 平成25年度は、引き続き、文化振興の拠点施設として、より多くの集客が見込めるような魅力ある企画を検討するほか、事業開催の周知に努めています。					
小学生芸術鑑賞教室事 業 (教育課)	1,153 人	1,076 人	1,045 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は中世の館ホールを会場に、7月18日、19日の2日間、演目「ミュージカル『冒険 西遊記』」を開催しましたが、対象となる浪岡地区内の小学生の減少に伴い、参加者数も減少しました。 平成25年度は、引き続き、人間性豊かな児童の育成環境を整えるため、浪岡地区内の小学生に優れた芸術に触れて感動を与える機会を提供しています。					
浪岡舞台演劇公演支援 事業 (教育課)	468 人	498 人	456 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、9月7日、8日中世の館において第25回公演「みちはつれ」を上演しました。 平成25年度は、引き続き、地域における舞台芸術の活性化及び人材育成を図るため、住民参加型の公演活動に取り組み、演劇公演実行委員会への支援を実施しています。					

**(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)**

<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化資産を活用したまちづくりの基本方針を示す「アートで音楽のあるまちづくり方針」を策定するとともに、「アート・音楽マップ」により本市の文化芸術情報、棟方志功等の本市にゆかりのある作家の情報発信を行いました。また、市民が優れた美術作品を鑑賞できる機会の提供や多数の版画家を輩出した版画のまちとして郷土の文化資産である版画芸術に対する理解を深めることを目的とした市所蔵の作品展を実施しましたが、文化資産を活用した事業の参加者数は、前年度を下回りました。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アートで音楽のあるまちづくり方針に基づき、版画等の市所蔵作品の活用はもとより、魅力あるまちづくりのため、アートで音楽のあるまちづくりの中心的組織とともに、文化資産の掘り起こし、磨き上げの検討や情報発信、イベントの実施などに取り組む必要があります。</li> <li>版画文化の継承を図るため、青少年を対象とした版画公募展等の事業を継続的に取り組むとともに、本市の版画文化を国内外へ発信する必要があります。</li> </ul> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アートで音楽のあるまちづくりを市とともに推進する中心的組織と、魅力あるまちづくりのため、文化資源の掘り起こし、磨き上げの検討を行います。</li> <li>市所蔵作品の活用については、関係機関との連携など展示内容の充実に向けた検討を行います。</li> <li>版画文化の継承を図るため、青少年を対象とした版画公募展等の事業を継続的に取り組むとともに、本市の版画文化を国内外へ発信します。</li> </ul>
---

平成25年度 事務の点検及び評価表  
 政策第3節 文化・芸術の推進(3 文化財の保存・発信)

【目標指標】文化財を活用した事業の参加者数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

各施設とも過去の参加者数の推移を勘案し、平成27年度は年間平均増加数を加えた41,716人を目標値としました。

指標名	方向	基準値		目標値	実績値					現時点での達成率	
		H21	H23	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
文化財を活用した事業の参加者数	+	H21	23,648	人	41,716	19,038	45,450	**	**	**	108.95%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5013003	文化財保護事務	文化財課	47	47	148	158(867)	継続
5013009	小牧野遺跡整備事業	文化財課	13,838	20,023	24,999	74,752	継続
5013012	史跡見学者対策事業	文化財課	1,509	1,509	1,472	1,537	継続
5013031	世界遺産登録推進事業	文化財課	2,020	2,344	2,452	2,519	継続
5013020	森林博物館運営管理事業	文化財課	17,935	15,395	15,572	15,572	継続
5090007	浪岡地区文化財管理事業	教育課	1,348	1,378	1,364	1,208(1,565)	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
小牧野遺跡見学者数 (文化財課)	2,944 人	2,513 人	2,427 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、世界遺産ツアーや小牧野遺跡での植樹祭イベント、市民とともに遺跡整備を行う小牧野遺跡ボランティアサポーター活動などを実施しています。 平成25年度からは、団体客向けにボランティア組織による遺跡ガイドを行うなど、遺跡の活用に努めています。						
森林博物館入館者数 (文化財課)	9,070 人	8,735 人	9,125 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、前年度に引き続き無料入館イベント「ふれあいデー」のほかに「夏休みふれあいデー」を開催したところ、併催した世界のカブトムシ展との相乗効果により年間入館者数で前年度を上回ることとなりました。 平成25年度は、無料入館イベントに加え、ミニ演奏会や絵画コンクール展会場として利用し、利用者の増加を図っています。						
出前展示(小中学校 他)(文化財課)	611 人	367 人	203 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度の利用学校数、人数は4校、203人という実績で、平成23年度の7校、367人と比較すると減少しました。 平成25年度からは学校への利用案内回数を増やすなど、出前展示の周知を図ることとしています。						
ストリート・ミニ・ミュージアム来場者(歴史民俗 資料) (文化財課)	人	2,084 人	28,378 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、通常のストリート・ミニ・ミュージアムの来場者807人に加え、青森市文化財資料等収蔵庫完成記念の展示会を八甲田丸とワ・ラッセにおいて開催し、その来場者数は合計で28,378人となりました。ストリート・ミニ・ミュージアムの来場者は平成23年度と比較すると減少しているため、今後もより多くの市民に文化・芸術に対する理解及び郷土愛の醸成が図られるよう、魅力ある企画の検討と事業開催の周知方法を工夫しています。						
青森市中世の館展示 観覧者数 (教育課)	1,218 人	1,349 人	1,272 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、旧坪田家住宅を雪害復旧のため9月7日まで非公開とした影響もあり、観覧者数が減少しました。 平成25年度は、施設の周知に努めるとともに、観光パンフレット等を有効活用し、集客の増加を図っています。						
旧坪田家住宅見学者 数 (教育課)	316 人	1,235 人	253 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、雪害復旧のため、9月7日まで非公開としたことから、見学者数が減少しました。 平成25年度は施設並びに事業開催の周知に努めています。						
中世の館文化財資産 活用事業参加者数 (教育課)	251 人	660 人	1,636 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、指定管理者の自主事業「田中忠三郎コレクション展」を開催し、県内外から多くの方が来場し、高い評価を受けました。 平成25年度も、郷土の歴史・民俗等に関する施設として、集客が見込めるような企画内容を検討するとともに、事業開催の周知に努めています。						
浪岡城跡案内所利用者 数 (教育課)	1,207 人	2,095 人	2,156 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、平成23年度中に作成した史跡散策用リーフレットを活用して周知に努めた結果、史跡浪岡城跡を訪れる個人利用者が増加しました。 平成25年度も引き続き、施設の周知を図っています。						

### (3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

#### 【成果】

・縄文遺跡群の世界遺産登録推進に向けて小牧野遺跡保存管理計画の策定や保護に関する条例を制定するとともに、市民参加の史跡整備等の実施や小牧野遺跡の出土品の市文化財指定、国史跡の公有化及び整備を行い、遺跡の価値を世界に発信しました。また、指定文化財等の定期的な巡視を実施し、郷土の文化財の適切な保護・保存に努めたほか、市所有の美術・歴史民俗資料等については、文化財資料等収蔵庫で適正に管理するとともに、「ストリート・ミニ・ミュージアム」など資料活用企画展等を開催した結果、文化財を活用した事業の参加者数は、目標値を上回ることができました。

#### 【課題】

・縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて、小牧野遺跡の保護・保存のために保存管理計画や保護に関する条例の着実な実施と、日本政府が推薦できるよう4道県が連携して対応することが必要です。また、国史跡については、更なる公有化と整備が必要です。  
・市所有の文化資産について、魅力ある展示会の開催や出前展示の内容の充実と効果的なPRにより保管施設が整備されましたが、それらの活用について検討する必要があります。

#### 【今後の方向性】

・縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて、構成する4道県が連携し、日本政府に対して早期の推薦を働きかけていきます。  
・小牧野遺跡については、史跡に隣接する史跡案内・展示施設を整備するとともに、縄文遺跡ホームページやリーフレット配付、遺跡見学会の実施など、積極的なPRに努めます。  
・市所有の文化財について、魅力ある展示会の開催や出前展示の内容の充実と効果的なPRを行うことにより利用者の増加を図ります。

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 政策第4節 スポーツ・レクリエーションの推進 (1 スポーツ・レクリエーション活動の推進)】

【目標指標】 スポーツ施設利用者数  
 <平成27年度目標指標設定の考え方>

各施設とも過去の利用者数の推移を勘案し、年間平均増加数又は過去の最高値を平成27年度の目標値としました。

指 標 名	方向	基準値		目標値	実 績 値					現時点での達成率	
		H21	H22	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
スポーツ施設利用者数	+	H21	937,517	人	1,044,623	876,957	1,077,242	**	**	**	103.1%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011051	生涯スポーツ・レクリエーション支援事業	文化スポーツ振興課	628	5,388	4,975	475	継続
5011056	スポーツ振興施設運営管理事業(スポーツ振興事業)	文化スポーツ振興課	7,965	3,465	3,103	0	継続
5011057	スポーツ振興施設運営管理事業(スポーツ施設管理)	文化スポーツ振興課	368,840	317,057	311,414	284,799	継続
5011067	スポーツ事業後援事業	文化スポーツ振興課	74	35	0	0	継続
5011079	市民室内プール改修事業	文化スポーツ振興課	0	0	228,362	0	終了
5090019	中世の里マスターズ駅伝大会支援事業(補助金)	教育課	457	457	370	300	継続
5090020	スポーツフェスティバル支援事業(補助金)	教育課	72	72	58	47	継続
5090021	浪岡地区体育大会支援事業(補助金)	教育課	960	960	777	629	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
市民体育館利用者数 (文化スポーツ振興課)	159,556 人	171,406 人	178,018 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、指定管理者による施設利用PR及び施設機能を活かした各種スポーツ教室の開催、更には利用者の声を施設運営に反映させるなど、利用機会の拡大に努めたほか、個人利用者が増加したことなどから、利用者数の増加が図られました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供などにより、一層の利用PRに努めています。					
市民室内プール利用者数 (文化スポーツ振興課)	72,864 人	39,334 人	15,222 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、天井及び配管の改修により平成23年9月21日～平成24年11月9日まで長期休館した影響から、利用者数は基準値を下回りましたが、11月10日より再開し、徐々に利用者数が回復してきています。 平成25年度は、指定管理者による施設利用PR及び施設機能を活かした各種スポーツ教室の開催により、一層の施設利用を図っています。					
市営野球場利用者数 (文化スポーツ振興課)	199,395 人	144,840 人	331,152 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、春季東北地区高校野球大会や甲子園予選大会で地元高校の試合割り当てが多かったため、利用者数は基準値を上回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供などにより一層の利用PRに努めています。					
市営庭球場利用者数 (文化スポーツ振興課)	1,553 人	1,552 人	1,492 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、春季及び秋季は好天が続く、前年度に比較して利用者が増えましたが、夏季については全国高校総体があった前年度に比べ利用者数が減少したため、基準値を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供などにより、一層の利用PRに努めています。					
スポーツ会館利用者数 (文化スポーツ振興課)	152,008 人	150,695 人	147,519 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、指定管理者による施設利用PR及び施設機能を活かした各種スポーツ教室の開催、更には利用者の声を施設運営に反映させるなど、利用機会の拡大に努めたものの、前年度に行われた、青函対抗の大会(柔道・サッカー)・柔道指導法講習会・全国高校サッカー選手権大会青森県大会が今年度は行われなかったため、利用者数は基準値を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
屋内グラウンド利用者数 (文化スポーツ振興課)	162,315 人	179,130 人	189,104 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、指定管理者による施設利用PR及び施設機能を活かした各種スポーツ教室の開催、更には利用者の声を施設運営に反映させるなど、利用機会の拡大に努めたことにより、主練習場とトレーニング室、会議室の利用者数が前年度を上回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
スポーツ広場利用者数 (文化スポーツ振興課)	87,764 人	99,783 人	109,525 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、指定管理者による施設利用PR及び施設機能を活かした各種スポーツ教室の開催、更には利用者の声を施設運営に反映させるなど、利用機会の拡大に努めたことにより、野球場、サッカー場、ラグビー場、庭球場、会議室の利用者数が前年度を上回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
夜間スポーツ広場(泉川・大野・浜田)利用者数 (文化スポーツ振興課)	2,737 人	1,939 人	2,180 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、広報あおもりやホームページなど市の有する広報媒体を活用し、PRに努めたものの、夜間スポーツ広場を利用していた団体がスポーツ広場に利用を切り替える等の理由により団体利用が減少したため、基準値を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					



瀬戸子グラウンド利用者数 (文化スポーツ振興課)	7,615 人	100 人	200 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、広報あおりやホームページなど市の有する広報媒体を活用しPRに努めたものの、利用者数は基準値を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めているとともに、今後の施設のあり方について、存廃も含め検討します。					
浪岡体育館利用者数 (教育課)	66,016 人	55,063 人	68,914 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、震災前の利用者数に回復しています。 平成25年度は、引き続き施設の周知のほか、自主事業や補助事業に事業参加者や施設利用者の声を反映させるなどして、施設利用者の増加に努めています。					
【参考】 浪岡野球場 (都市整備課)	5,731 人	4,932 人	6,871 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、施設利用者の声を反映させるなど、快適な環境整備に努め、利用者数が前年度を上回りました。 平成25年度は、引き続き施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
【参考】 浪岡陸上競技場 (都市整備課)	10,353 人	16,338 人	17,708 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、施設利用者の声を反映させるなど、快適な環境整備に努め、利用者数が前年度を上回りました。 平成25年度は、引き続き施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
【参考】 浪岡相撲場 (都市整備課)	600 人	610 人	310 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、施設利用者の声を反映させるなど、快適な環境整備に努めましたが、団体利用が減少したため利用者数が基準値を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					
【参考】 浪岡庭球場 (都市整備課)	9,010 人	11,235 人	9,027 人	** 人	** 人	** 人
	平成24年度は、施設利用者の声を反映させるなど、快適な環境整備に努めましたが、利用者数が前年度を下回りました。 平成25年度は、施設の空き情報の提供など、より一層の利用PRに努めています。					

### (3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

#### 【成果】

・国のスポーツ基本法に基づき、明るく活気に満ちた生涯スポーツ社会の実現に向けた「青森市スポーツ推進計画」を策定しました。市民体育館などのスポーツ施設において、スポーツ・レクリエーション活動の振興を目的としたスポーツ教室やイベント、各種大会の開催を行い、スポーツ・レクリエーション活動に参加できる機会の充実を図りました。春季東北地区高校野球大会などの全国・東北大会が各施設で開催されるなど、高い競技力水準のスポーツを観戦できる機会が提供されました。また、老朽化している施設の改修を行うことで、環境の維持・充実を図った結果、スポーツ施設利用者数は、目標値を上回りました。

#### 【課題】

・スポーツ・レクリエーションに対するニーズは今後、一層高まるものと考えられることから、市民ニーズの把握に努めながら、「青森市スポーツ推進計画」に基づき、更なるスポーツ振興に取り組む必要があります。  
・スポーツ推進員の派遣システムの積極的な活用を促進し、市民がスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりに継続して取り組む必要があります。  
・市所有のスポーツ施設の中には築後30年以上を経過している施設もあることから、保守管理にこれまで以上に注意を払うとともに、利用者の安全確保及び施設の機能維持を図るため、修繕を行う必要があります。  
・スポーツ・レクリエーションに関する情報を提供することで、市民のスポーツ・レクリエーション活動参加へのきっかけづくりに取り組む必要があります。

#### 【今後の方向性】

・スポーツ・レクリエーション活動に参加できる機会や、「bjリーグ青森ワッツ」などの高い競技水準のスポーツを観戦できる機会の充実を図ると共に、「青森市スポーツ推進計画」に基づき、更なるスポーツ振興に取り組んでいきます。  
・スポーツ推進委員の派遣システムの積極的な活用を促進やスポーツ・レクリエーション団体に関する情報を提供することで、市民のスポーツ・レクリエーション活動参加へのきっかけづくりに取り組みます。  
・スポーツ施設の維持修繕等を適切に実施することで、市民の安全確保を図ります。  
・「スポ・レクニュース」の発行を継続することにより、スポーツレクリエーションに関する情報を発信し、スポーツレクリエーションの拠点づくりを進めます。

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
 政策第4節 スポーツ・レクリエーションの推進(2 ウィンタースポーツの推進)】

【目標指標】 ウィンタースポーツ事業の参加者数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

各施設とも過去の参加者数の推移を勘案し、年間平均増加数または過去の最高値を平成27年度の目標値としました。

指標名	方向	基準値			目標値	実績値					現時点での達成率
		H21	H23	H24	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27	
ウィンタースポーツ事業の参加者数	+	H21	797	人	937	777	739	**	**	**	78.9%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011061	小・中学生カーリング普及事業	文化スポーツ振興課	80	80	80	0	終了
5011066	全国高等学校カーリング選手権大会開催事業	文化スポーツ振興課	5,360	5,360	4,616	4,499	継続
5011068	スキースロープ設置助成事業	文化スポーツ振興課	600	600	600	540	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
全国高等学校カーリング選手権大会参加者数 (文化スポーツ振興課)	44人	41人	43人	**人	**人	**人
平成24年度は、全国の高校生カーラーを一堂に集めた「全国高等学校カーリング選手権大会」を開催し、カーリングの街・青森を全国に向け発信しました。また、強く働きかけを行った結果、西日本ブロックからのチーム参加が得られました。 平成25年度においても青森県カーリング協会、更には日本カーリング協会との連携も密にしながら、全国各ブロックからチームが出場できるよう、早い時期からの出場要請を含め万全の対策を講じています。						
小学生カーリングチャレンジカップ参加者数 (文化スポーツ振興課)	130人	122人	78人	**人	**人	**人
平成24年度は、市内の小学生を対象とした「カーリングチャレンジカップ」を開催し、競技人口の裾野拡大及び競技力の向上に取り組みました。また、初心者でも大会に参加できるよう、競技会に加え「講習会」を開催し、初歩的な技術を習得できる機会を提供しました。事前に周知等にも努めましたが、参加者数は基準値を下回りました。 平成25年度は、同様の取組の継続実施により、冬期間の恒例イベントとして市民への定着を図っていきます。						
中学生カーリングチャレンジカップ参加者数 (文化スポーツ振興課)	24人	32人	43人	**人	**人	**人
平成24年度は、市内の中学生を対象とした「カーリングチャレンジカップ」を開催し、競技人口の裾野拡大及び競技力の向上に取り組みました。また、初心者でも大会に参加できるよう、競技会に加え「講習会」を開催し、初歩的な技術を習得できる機会を提供しました。事前に周知等にも努めた結果、参加者数は基準値を上回りました。 平成25年度は、同様の取組の継続実施により、冬期間の恒例イベントとして市民への定着を図っていきます。						
歩くスキーの集い参加者数 (文化スポーツ振興課)	54人	30人	59人	**人	**人	**人
平成24年度は、スポーツ推進委員の協力をいただきながら、合浦公園を会場に、ウィンタースポーツの推進と冬期間の体力づくりのために「歩くスキーの集い」を開催し、天候にも恵まれ、参加者数は基準値を上回りました。 平成25年度は、市の広報媒体を活用した参加PRにより、参加者の増大に取り組めます。						
(財)青森市文化スポーツ振興公社 ウィンタースポーツ(カーリング)事業参加者数 (文化スポーツ振興課)	505人	498人	486人	**人	**人	**人
平成24年度は、カーリング場を有するスポーツ会館の指定管理者の自主事業として、小学生カーリング大会及びカーリング感謝デーを開催し、競技人口の裾野拡大及び競技力の向上に取り組みましたが、参加者数は前年度を下回りました。 平成25年度は、市の広報媒体を活用した参加PRにより、参加者の増大に取り組めます。						
健康づくり元旦ジョギング参加者数 (教育課)	40人	54人	30人	**人	**人	**人
指定管理者の自主事業として、元旦に実施している1.5キロと4キロの2コースのジョギング大会を開催していますが、平成23年度は新幹線効果があったため参加者が増加したものの、平成24年度では基準値を下回りました。 平成25年度は、住民の健康増進を目指し、スポーツの振興を図っていくとともに、事業のPRについて工夫し、参加者の増加を図っています。						

### (3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

#### 【成果】

・小・中学生を対象とした「カーリング・チャレンジカップ」やカーリング教室の開催、「歩くスキーの集い」や「元旦ジョギング」などのイベントの開催、小学校へのスキースロープの設置助成金の交付などにより、気軽にウィンタースポーツに親しむことができる機会の充実を図りました。また、日本ジュニアカーリング選手権大会、全国高等学校カーリング選手権大会などが開催され、競技水準の向上が図られましたが、ウィンタースポーツ事業の参加者数は、目標値を下回りました。

#### 【課題】

・全国高等学校カーリング選手権大会については、全国各ブロックから参加チームを確保することが厳しくなりつつある状況となっていることや、第10回で財団法人地域活性化センターの助成金が終了する予定であることから、引き続き全国レベルの大会として開催できるよう、青森県カーリング協会とも連携しながら関係機関に働きかけを強化していく必要があります。

・ウィンタースポーツ事業参加者数が徐々に減少していることから、「スポ・レクニュース」の活用により、各事業の更なるPRに努めていく必要があります。

#### 【今後の方向性】

・「青森市スポーツ推進計画」に基づき、「カーリング・チャレンジカップ」などの各イベントの開催や、スキースロープ設置助成、カーリングの全国・東北大会の継続実施による競技水準の向上を基本としながらも、ウィンタースポーツの推進に取り組めます。

・全国高等学校カーリング選手権大会の今後の方針については関係機関と協議・検討します。

・「スポ・レクニュース」の継続発行により、ウィンタースポーツ事業の更なるPRに努めます。



【目標指標】ウィンタースポーツ施設利用者数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

各施設とも過去の参加者数の推移を勘案し、年間平均増加数又は過去の最高値を平成27年度の目標値としました。

指標名	方向	基準値		目標値 (H27)	実績値					現時点での達成率	
		H21	H23	H23	H24	H25	H26	H27			
ウィンタースポーツ施設利用者数	+	H21	113,234	人	116,467	106,449	103,503	**	**	**	88.9%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011061	小・中学生カーリング普及事業	文化スポーツ振興課	80	80	80	0	継続
5011066	全国高等学校カーリング選手権大会開催事業	文化スポーツ振興課	5,360	5,360	4,616	4,499	継続
5011068	スキースロープ設置助成事業	文化スポーツ振興課	600	600	600	540	継続

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
<b>【参考】</b> モヤヒルズ利用者数 (観光課)	83,900 人	77,542 人	74,590 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、モヤヒルズ内にスキー・スノーボードに対応可能なスキーコースを設置し、広報あおもりやホームページなど市の広報媒体を活用し、利用機会の拡大を図りましたが、シーズン中の天候の影響により、利用者数は基準値を下回りました。 平成25年度は、引き続き施設PRに努め、利用者の拡大に取り組んでいきます。 経済部所管事業						
スポーツ会館カーリング場利用者数 (文化スポーツ振興課)	28,966 人	28,692 人	28,710 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、スポーツ会館カーリング場の使用について、広報あおもりやホームページなど市の広報媒体を活用し利用促進を図ったほか、指定管理者の自主事業として、小学生カーリング大会及びカーリング感謝デーを開催し、利用促進及び競技人口の裾野拡大に取り組んだ結果、利用者数は基準値をやや下回ったものの、前年度と比較すると上回りました。 平成25年度は、同様の事業の継続実施により、利用者の増加に取り組んでいきます。						
<b>【参考】</b> 合浦公園(歩くスキー) (公園河川課)	368 人	215 人	203 人	** 人	** 人	** 人
平成24年度は、合浦公園内に歩くスキーのコースを設定するとともに、スキー用具の無料貸し出しを行ってウィンタースポーツの推進と冬期間の体力づくりに取り組みましたが、シーズン中の天候の影響により、利用者数は基準値を下回りました。 平成25年度は、市の広報媒体を活用したPRにより、利用者の増大に取り組んでいきます。 都市整備部所管事業						

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)

<p><b>【成果】</b></p> <p>・青森市スポーツ会館のカーリング場の使用について、広報あおもりやホームページを活用し利用促進を図ったほか、指定管理者の自主事業による、小学生カーリング大会やカーリング感謝デーを開催し、利用の促進と競技人口の裾野拡大に取り組みましたが、施設利用者数は、前年度を下回りました。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>・市民がウィンタースポーツに取り組みやすい環境づくりを進めるため、引き続きスポーツ会館カーリング場の利用期間拡大を検討する必要があります。</p> <p><b>【今後の方向性】</b></p> <p>・スポーツ会館カーリング場の利用期間拡大の検討を継続するとともに、ウィンタースポーツの競技人口の裾野拡大のため、更なる利用促進につながるようPRに努めます。</p>
---

**平成25年度 事務の点検及び評価表**  
**【政策第4節 スポーツ・レクリエーションの推進(3 競技力の向上)】**

**【目標指標】 スポーツ推進委員活動回数**

<平成27年度目標指標設定の考え方>

近年5カ年の最大値である平成20年度の2,345回を平成27年度の目標値としました。  
 スポーツ基本法の施行に伴い、名称を従来の「体育指導委員」から「スポーツ推進委員」に変更しました。

指 標 名	方向	基準値		目標値	実 績 値					現時点での達成率	
		H21	H22	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
スポーツ推進委員活動回数	+	H21	2,103	回	2,345	2,439	2,330	**	**	**	99.4%

**(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業**

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011058	スポーツ推進委員設置事業	文化スポーツ振興課	2,296	2,296	2,296	2296(1948)	継続

**(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況**

区分	基準値(H21)	H23	H24	H25	H26	H27
スポーツ推進委員活動 回数 (文化スポーツ振興課)	2,103 回	2,439 回	2,330 回	** 回	** 回	** 回
	平成24年度はスポーツ基本法の規定に基づき、市民に対する実技指導をはじめとしたスポーツに関する指導・助言等の役割を担っていただくスポーツ推進委員を40名委嘱し(任期はH24.4.1から2年間)、各団体やサークルの要請に応じてスポーツ活動の推進に取り組んでいただきましたが、前年度を下回ったものの、基準値は達成しました。 平成25年度からは、新たにスポーツ推進委員を市民の要望に応じて派遣する取組を行っています。					

**(3) 教育委員会の点検及び評価の結果(総合評価)**

**【成果】**

・スポーツ推進委員による指導が行われているほか、推進委員向けの各種研修会への参加を推進することで、指導員の資質が向上され、各団体やサークルの要請に応じてスポーツ活動の推進に取り組んでいただきましたが、スポーツ推進委員の活動回数は、前年度を下回りました。

**【課題】**

・引き続きスポーツ推進委員による指導及び各種研修会等への参加を推進することで指導者の資質向上に努める必要があります。

**【今後の方向性】**

・スポーツ推進委員による指導及び各種研修会等への参加を推進し、指導者の資質向上に努めていきます。  
 ・市民ニーズを的確に把握し、各団体やサークル等が、気軽に依頼できるシステムを構築し、競技水準の向上を図ります。

【目標指標】スポーツ賞及びスポーツ奨励賞受賞件数

<平成27年度目標指標設定の考え方>

スポーツ賞は減少傾向にあるため、近年5カ年の最高値である平成20年度の13件を平成27年度の目標値としました。  
 スポーツ奨励賞は増加傾向にあるため、年平均増減の1件を加えた値を平成27年度の目標値としました。

指 標 名	方向	基準値		目標値	実 績 値					現時点での達成率	
		H22	H23	(H27)	H23	H24	H25	H26	H27		
スポーツ賞及びスポーツ奨励賞受賞件数	+	H22	136	件	147	129	141	**	**	**	95.9%

(1) 目標指標に関連する平成24年度事務事業

事業番号	事務事業名	担当課	H22年度 予算額	H23年度 予算額	H24年度 予算額	H25年度 予算額	事業 区分
5011054	青森市体育・スポーツ競技団体育成強化事業（補助金）	文化スポーツ振興課	4,561	4,214	6,722	4,254	継続
5011058	スポーツ推進委員設置事業	文化スポーツ振興課	2,296	2,296	2,296	2296（1948）	継続
5011065	県民体育大会参加事業（負担金）	文化スポーツ振興課	100	3,768	100	100	継続
5011069	スポーツ賞表彰事業	文化スポーツ振興課	733	544	597	510（678）	拡充
5011072	青森市中学校体育大会夏季大会開催事業（負担金）	文化スポーツ振興課	250	250	250	250	継続
5011074	中学校体育大会選手派遣事業（補助金）	文化スポーツ振興課	8,796	6,864	2,936	3,127	継続
5011075	中学校体育大会開催事業（補助金）	文化スポーツ振興課	50	0	1,100	0	継続
5011076	高等学校全国大会選手派遣事業（補助金）	文化スポーツ振興課	0	0	3,400	2,000	縮小

(2) 目標指標に関連する教育委員会事務局の平成24年度の取組状況

区分	基準値(H22)	H23	H24	H25	H26	H27
スポーツ賞受賞件数 (文化スポーツ振興課)	7 件	8 件	7 件	** 件	** 件	** 件
	<指導者の確保> スポーツ推進委員の設置及び各種研修会への参加支援など、指導者の確保及び資質向上に取り組みました。 <競技力の向上> 財団法人青森市体育協会が実施する競技力向上に資する各種事業に対して補助金を交付したほか、更なる競技力の向上を図るため、優秀な成績を収めた個人・団体に対する表彰を実施しました。表彰者については、広報あもりに掲載し、広く周知に努めました。					
スポーツ奨励賞受賞件数 (文化スポーツ振興課)	129 件	121 件	134 件	** 件	** 件	** 件
	<指導者の確保> スポーツ推進委員の設置及び各種研修会への参加支援など、指導者の確保及び資質向上に取り組みました。 <競技力の向上> 財団法人青森市体育協会が実施する競技力向上に資する各種事業に対して補助金を交付したほか、更なる競技力の向上を図るため、優秀な成績を収めた個人・団体に対する表彰を実施しました。表彰者については、広報あもりに掲載し、広く周知に努めました。					

(3) 教育委員会の点検及び評価の結果（総合評価）

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な成績を収めた個人・団体に対するスポーツ賞・スポーツ奨励賞を実施し、競技力の向上を図った結果、スポーツ賞・スポーツ奨励賞の受賞件数は、前年度を上回りました。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上を図るため、財団法人青森市体育協会への助成や、小学校体育デー及び中学校体育大会の開催費助成、中学生・高校生への東北・全国大会派遣費補助、競技意欲を高めるためのスポーツ賞・スポーツ奨励賞、指導意欲を高めるためのスポーツ指導者賞を継続実施していく必要があります。</li> </ul> <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競技力向上を図るため、財団法人青森市体育協会への助成や、小学校体育デー及び中学校体育大会の開催費助成、中学生・高校生への東北・全国大会派遣費補助、競技意欲を高めるためのスポーツ賞・スポーツ奨励賞、指導意欲を高めるためのスポーツ指導者賞を継続実施していきます。</li> <li>・平成25年度からの新たな事業として、指導者資格取得者に対する奨励金を交付するスポーツ指導者育成支援事業を継続することにより、指導者の確保・資質向上に努めます。</li> </ul>
--

#### 4. 学識経験者の意見（総評）

内 海 隆 （公立大学法人青森公立大学経営経済学部教授）

昨年度から事務の点検・評価アドバイザーとして関わっているが、次の3点について、大まかな私見を述べて総評としたい。

まず一つ目は、今年度の評価手法が、事務局の自己点検による「評価・課題・今後の方向性」について、平成26年度に向けて意見を述べる形式になったことで、市の基本政策第4章「歴史と文化を受け継ぎ、未来を創造する人を育むまち」の具現化を、教育行政がどうやって学校、家庭、地域の連携を図り、子どもや大人の学習を支援、担保していくかという視点で考えることができるようになった点である。

二つ目は、学力に関わる県の学習状況調査の結果について、小学生（5年生）中学生（2年生）とも調査結果についての妥当な分析がなされていることと、それを各学校の「学力向上アクションプラン」とリンクさせ協業で更なる改善を図ろうとしている点である。いわゆる「学力テスト」は、調査実施時点での「値踏み」ともなるものであるが、あらかじめ設定した目標に対する結果の分析が全体の底上げにつながると思うからである。

三つ目は、青森市の歴史と文化を学び、どう伝えるかという点で、社会体育を含めた社会教育の重要性が成果の一部に確認できたことである。子どもや大人が地域づくり、自分づくりに主体的に取り組むことによって、社会教育のいう實際生活に役立つ知識と実践力がそなわった地域づくりの担い手の育成が可能となるからである。

成 田 幾 末 （青森人権擁護委員）

教育委員会が所掌する事業を推進するに当たっては成果や課題を分析・考察しつつその結果を真摯に受け止めて対策を講じていく必要がある。

今回の平成25年度事務の点検及び評価表は「目標指数に関する取組状況」や「過年度の課題及び次年度への方向性」が詳細にまとめられており、事業内容の点検が適切に行われている印象を受けた。市民からの教育委員会に対する要望は複雑且つ高度なものになっており、それに応えるためにもこのような事務の点検・評価の果たす役割は大きなものがあると思われる。

第1節学校教育の充実の方策として研修講座を通しての教員の指導力の向上が挙げられているが、受講者の数は限られている。受講者が教育現場に戻った時に研修の成果が教員間に広がり、児童生徒の学力の向上につながる講座内容を期待したい。3節・4節では集客人数が課題となっているが、社会情勢の変化も踏まえて原因を明らかにし、場合によっては目標値の検討も必要かと考える。

教育は効率を最優先させると時に本質を見失う危険性があります。数字として見える効果と数字に表れない効果のバランスを取りながら事業が展開されることを期待します。

## 5.まとめ

今年度も地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条に基づき、「教育委員会の責任体制の明確化」を図るため、教育委員会事務局が実施する青森市の学校教育や社会教育等に関する事業の管理及び執行状況について、教育委員自らが、学識経験者の幅広い見地からの貴重なアドバイスをいただきながら、「点検及び評価」を実施した。

今年度の事務事業の点検・評価については、効果的な教育行政の推進という点検評価の目的を踏まえ、青森市新総合計画の前期基本政策第4章「歴史と文化を受け継ぎ未来を想像する人を育むまち」に掲げられている施策目標の達成度を参考に、その施策目標達成のための手段である事務事業及び取組を絞り込んで、点検・評価対象の重点化を図り、実施した。

その結果について、「評価」、「課題」、「今後の方向性」の3つに区分し、市民の教育・文化・スポーツ等への関心は非常に高く、教育委員会の果たす役割と透明性の確保がますます問われていることから、説明責任を十分に果たすことと、更なる真摯な事業への取組をもって積極的に市民の声に応えていかなければならないと考える。

そのためにも、各施策における事業の意義・目的を常に意識しながら、改善のための不断の努力を心がけ、引き続き長期的な展望に立った教育行政を推進していく必要がある。

各政策についての評価や課題に対しては、以下の方向で今後対応して参りたい。

- ・「学校教育の充実」については、概ね良好な評価である。施策の「教育活動の充実」では、質の高い教育、心豊かな教育の確保が求められていることから、各学校の「学力アクションプラン」の実現と教育委員会が主催する教員の研修の充実をリンクさせる。また「いじめ問題」に関しては、家庭と学校の情報連携に努めるとともに、きめ細かな相談・支援体制に向けた取組を積極的に展開していく。
- ・「社会教育・生涯学習の推進」については、概ね良好な評価である。施策の「社会教育・生涯学習の活動推進」では、学んだ成果を地域に生かしていくことが求められていることから、学習やボランティアへの意欲の持続と自ら学んだ成果を地域に広く還元できるように市民センター等がコーディネートしていくことや多様な団体との連携による学習機会を提供していく。
- ・「文化・芸術の推進」については、高い評価である。特にキッズコンサートなどの「アートで音楽のあるまちづくり事業」は好評であることから、今後、更に文化資源の掘り起こしや磨きあげの検討をしていく。また、文化財の保存や活用、伝承、伝統文化の保存・継承などは、費用対効果だけでは図れない価値があることから、支援を含め長く継続して取り組んでいくことと、今後とも事業の理念・目的を明確に打ち出し、市民への浸透・理解を十分に図りながら着実に事業を推進していく。
- ・「スポーツ・レクリエーションの推進」については、概ね良好な評価である。「スポーツ推進計画」が策定され、ニーズは一層高まることが予想されることから、年代に応じた活動機会の充実を図るとともに、多くの市民が気軽にスポーツ活動を行う機会の充実に努めていく。また、ウインタースポーツへの参加者が減少してきていることから、競技人口の裾野拡大のために、利用促進に繋がるようPR活動や会場（競技場）の整備を推進していく。